

B—99 ズポンの折目線に関する研究（第5報）
—婦人用スラックスの折目線におよぼす
折目線第三因子の影響（その2）—

高知女大家政

市川 一夫

○寺内アヤ子

1. 市川はさきにズボン折目線の水平方向を左右する折目線第1因子より第3因子までを発見，予備実験で，その効果を確かめた。第1報より第4報までにおいて第1因子および第2因子までの本実験結果，および第3因子の本実験結果の一部について報告を行なった。

本報では第1因子の変化した場合における第3因子の影響について検討した。

2. 使用布地はテロンウール地で，採用した婦人用スラックスの設計法は第2報のと同じものである。第3因子となる後身の市川線の傾斜を垂直から普通の設計法の場合の傾斜を含めた2種類の傾斜したものまでをとり，いずれの場合も第2因子が介入しないように設計した。

以上の方法で作られたスラックスについて，市川の考察した角度測定器によって着用時の折目線の水平方向を測定した。

3. 第3因子による，第1因子を変化させて縫製された折目線の内向しているスラックスの折目線水平方向の変化は，市川線の垂直のものが最も内向し，傾斜するにしたがい内向の程度を減少した。すなわち，第3因子が傾斜するにしたがい折目線の水平方向を外向させる作用が強くなることが明らかになった。